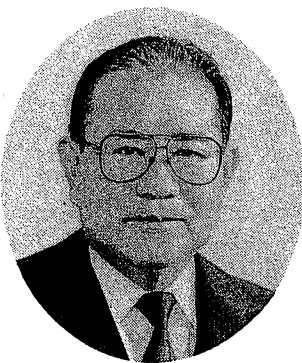


旭川医大病院ニュース

題字は吉岡元病院長
〔編集〕
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌編集委員会
委員長
牧野教授（第二内科）

退官にあたって

院長 清水哲也



店などで従業員の接客態度が悪いと「サービスが悪い」など。しかし本来的に「サービス」という言葉は、奉仕、世話、勤務を意味しており、患者態度が悪いと「サービスが悪い」など。このことは現在、八〇万人の寝た切り老人は二〇二五年には二三〇万人、さらには自分の身の世話を自分で出来ない、いわゆる「虚弱老人」の数も、その頃には五〇〇万人に達するだろうと推定されています。

病院正面玄関前の花壇では、原色の花が妍を競い、またキャンパス東側のラベンダーも日ごとその色を濃くし始め、文字通り「さわやかな」季節を迎えつつあります。

「さわやか」といいますと「さわやか行政サービス」という言葉が連想されます。ところで「サービス」とはどんな意味があるのでしょうか。これほど狭い意味に誤解されている言葉はないようです。買物をしたときに「サービスしなさいよ」は、値引き交渉話ですし、喫茶

「ペコペコ」したり、卑屈なお追従笑いをしなさいということなどを決して意味してはいけません。通常の勤務を平常心で、整合性をもつてやりなさいというところにほかなりません。一方、また「公務員」たるもの毅然たる態度で勤務に臨むべしという考え方もあります。しかしまた「公務員」は全体に対する「奉仕者」の精神に徹すべしともいわれます。



外国人留学生とともに

ただ、ここで誤解してはいけないのは毅然たる態度とは、「尊大」とか「不遜」といった言葉とは無関係だということです。

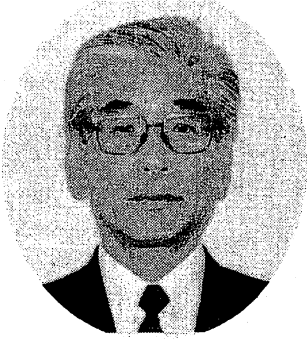
今、わが国は「超高齢化社会」を迎え、二〇二五年には、国民の四人に一人が六十五歳以上という極端な人口構成を迎えようとしております。

途方に暮れながら、一体、どの方向に歩を進め、どこかの窓口にたどりつけばよいのか分らない状況になっていくとき、カウンター業務についている職員が、左右から飛び出して件の老患者に手をそえて「おばあちゃん、こっちだよ」と声をかけることこそ、国立大病院の「さわやか行政サービス」の真の姿ではないでし

ようか。私も来年の一月には七十歳を迎えます。前記した虚弱老人のいたいたしい姿にわが身をオーバラップしながら、昭和四十九年から二十三年間にわたって本学の教職員の皆様から頂いたご高配に感謝し、本学、なかんずく附属病院が「さわやかサービス」に満ち満ちた病院になることを期待致します。

就任にあたって

総務部長 中村守



で今は診察室や検査室に入った時のようにいささか緊張しております。

さて、本学附属病院も開設以来年々整備が図られ、教育・研究そして地域の医療に大きな貢献を果たしてきております。

四月一日付けで総務部長に就任致しました中村でございます。室蘭の出身で、室蘭工業大学に就職の後、苫小牧工業高等専門学校、帯広畜産大学、茨城大学、島根医科大学を経て七年ぶりに北海道勤務となりまして、これまでの勤務の殆どが学生部や教務部でしたので病院に関わる仕事は本学が初めてです。そんなわけ

しかしながら、近年の科学技術の進歩や高齢化・少子化等にもみられます社会の成熟化現象等から、医学や医療への関心は一層高まり、患者の人權や生命の尊厳を尊重した医療や患者の生活と人生の質を重視した医療が求められる時代となつてきております。そして、これに伴う大学の附属病院に対する要請も、教育や研究水準の向

上、高度医療の推進、患者サービスの向上等ますます多様化するともに高度なものになってきているといわれております。

一方、国の厳しい財政事情から、数次にわたって定員削減が実施され、これに対応するため組織や事務処理の見直し・改善が進みつつある中、病院収入増につながる病床稼働率の向上や診療報酬請求の適正化等といった病院経営の改善も強く求められております。加えて、最近では国立大学や附属病院の独立機関化や民営化の話題さえも飛びかっております。

限られた予算とスタッフで、このような課題に対処し様々な要請にこたえてゆくためには何よりもチームワークが大事だと思っております。大学には先生はじめ看護婦さん、技師さん、事務官等様々な仕事を担当する方々がございます。それぞれの立場から建設的な知恵を出し合い協力することによって新たな展望が開かれるものと思っております。

まだ学内の様子もよく分からないまま仕事に追われている状態ですが、皆様のお力添えを頂きながら、本学の充実・発展に役立つよう努めたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

就任にあたって 院長の助言



四月一日付で業務部長を拝命し、過日着任いたしました佐藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。私には生れも育ちも北海道であり、郷里であります旭川医科大学に勤務することになりましたことは、私にとって光栄であり、大変嬉しく思っております。

さて、就任にあたって抱負など一言書くように依頼を受けましたが、そんな大それたことは考えてもいなかったので大変戸惑っているところなんです。ただ、脳裏を掠めているのは現在橋本内閣が取組んでいる「我々国家公務員にとって頭の痛い」行政改革であります。

我が国の赤字財政から脱却することを目的に、財政再建が推められ行政改革、会議において国の行政機能

を統一・廃合するなどを柱とする、再編成計画が検討され八月を目処にまとめることになっておりまして、私も医大に職する国立大学病院も昨今の運営経費の赤字から財政構造改革の対象に浮上し、エージェンシー(外庁方式)独立行政法人化・地方移管あるいは、民営化などが論じられ大学病院にとって真に厳しい現状になってきています。大学病院の運営経費は国立学校特別会計制であり、言ってみれば独立採算が原則であります、自己収入によって賄おうことになることから赤字にならないよう創意工夫が必要であります。

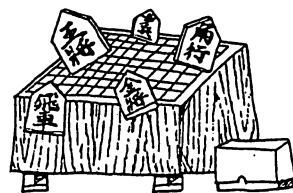
近年の病院運営費不足から国の一般会計予算からの繰入れが一、七〇〇億円余

にも達し、国家財政を圧迫しているところから運営改善などの自己努力が求められております。

昨今の中央会議において、文部省から行革審のヒヤリングに触れ附属病院にあっては数字のみの考え方で、今後の見通しなどが問われ厳しい見方であり、これらの対策として個々の大学病院に実効の上がる改善が求められております。自分として何を改善すれば収支上実効が上がるのか皆さんと総意を上げて努力したいと考えております。

本院は新設医大の一期校として創設以来二十年を経

て道北地域の中核としての役割を担い今後更なる発展が期待されておりそれに向けて施設の充実と患者のアメニティーの向上に努力したいと思っておりますので、皆様方のご指導と積極的なご意見ご協力をお願い申し上げます。



看護部長に就任して 朝も 昼も 夜も 新井多美子



平成九年四月一日に辞命をいただいたから、早いもので二か月が過ぎました。私は昭和五十年に北海道大学医学部附属病院から転任しました。旭川医科大学医学部附属病院創設準備室に入り、昭和五十一年の開院時には病棟婦長として6階西ナーステーションに配属になりました。その後、7階東ナーステーションに移り、昭和五十四年には7階東西ナーステーションを担当する主任婦長となり、昭和五十七年に教育担当副部長として看護部に入り、現在に至っております。

その間に二人の看護部長から管理姿勢を学ばせていただきました。岡崎元看護部長からは忍耐力、増岡前

看護部は常に旭川医大病院を利用される皆様満足できるようにと心がけてきました。私もこの意志を継続していきたいと思っております。患者さんやそのご家族が持つ不安や疑問をいち早く解消することは大切なことです。そのため看護婦はベッドサイドで話を傾聴し、それ的確に答えていくことです。このことはお互いの信頼関係を築く基礎となります。この基礎となるコミュニケーション能力、協調性を備えた看護婦を育てるのが課題だと思います。

一方、特定機能病院として高度先進医療が行われている当院では、複雑な疾病を持つ重篤な患者さんが入院して来ます。このような患者さんの持つ看護問題も

「門前の小僧、習わぬ経を読む」という話があります。門前の小僧はやはり門前の小僧で経を読むだけ、経の持つ深い内容にはわからないものなのだと思感する毎日です。

看護部は常に旭川

複雑で解決が難しくなっています。看護は専門性が高く、質の高いケアが求められてきます。そこで専門看護師、認定看護師、感染管理、臨地実習指導者などのスペシャリストの存在が重要な意味を持つてきます。これらのスペシャリストを指す看護婦を育成していくのも課題です。現在希望する看護婦がいますので非常に心強く思っています。

昨年からの活動を開始した継続ケア室も地域社会と連携をとり入院患者さん、外来患者さんのケアが継続できるように支援する事を目的としています。ここでは患者さんの在宅療養に関する相談や社会資源の活用方法などをアドバイスしています。この活動を推進していくことは当院の看護の領域を広げるだけでなく地域における健康問題の解決にも寄与できるものと考えます。

最後に看護職員が意欲を持って働ける魅力ある職場になるように、皆様のご意見、ご示唆をくみ取りながら進んでいきたいと思っております。よろしくお願申し上げます。



五月十二日は看護の日 看護の心をみんなの心に

看護の日・看護週間が制定されたのは、平成三年五月。ナイチンゲールの誕生日である五月十二日を看護の日とし、この日を含む一週間を看護週間とした。

その趣旨は、高齢化社会を支えていく為に、大人も子供も、お互いに思い遣って、世話する事・看護する事に関心と理解を深めようと言うものである。

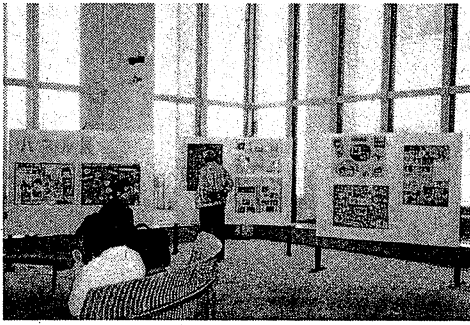
看護の日も今年七回目を迎え、「看護は勇氣」を合言葉とし、看護の心をみんなの心に浸透させるべく、当院看護部でも五月十一日から十七日までの看護週間中に、「パネル展」・「ふれあい看護体験」・「音楽の夕べ」の行事を行った。パネル展のテーマには、各ナースステーションの患



者さんの日常生活指導で最も特徴的なものをあげた。

五月十三日の「ふれあい看護体験」の参加者は十九名だった。高校生十七名、予備校生一名、社会人一名である。高校生のほとんどが将来看護職を希望しており、中には、小学五年生の時から絶対に看護の道に進

意識を持っていた。病棟での患者さんとのふれあい体験を終えてさまざま意見が聞かれた。患者さんとのコミュニケーションをとるのは大変難しかった。看護婦たちは、患者さん一人一人に気配りし、仕事も大変だがそれ以上に得るものもあり、すばらしい仕事だと改めて思えた。看護婦たちの働く姿は素敵だった等である。また、看護婦となり結婚しても安心して続けて働くことが出来るようにと心配しているものもいた。



「音楽の夕べ」は、六組の出演がありパフォーマンスと歌で、ステージと客席が一体となり、楽しいひとときを過ごす事ができた。最後に御協力下さいました、各課職員の皆様へ感謝申し上げます。
(看護部総務委員 久保 治美)

入局にあたって

蘇生科 蘇生科 国沢卓之



水色から緑の術衣で術場に足を踏み入れるようになって、もう一ヶ月になろうとしていきます。国家試験用の知識ですら薄れ実際に行う手技的な知識は皆無に等しかった新米医師が、一社会人として一医師としての大きな責任を抱えながらこのわずかな期間にも学んだことは多いと思います。

学生時代には、ある疾患の典型的なデータを与えられその病態を理解しその処置を覚えるだけであったのが、実際の医療の現場ではデータや画像一つとるにしてもそこに患者さんが存在し、データ・画像を正確に得ることの大変さなどを痛感しています。例えば、血液ガスの値一つ知りたいと思っても学生時代はそれが一覽表になつていたところが、現実ではそこに患者さんの苦痛があり手技の難しさがあり、検体の扱いでデー

Fresh Voice

ところで今年度の麻酔科蘇生科の入局員は寂しいことに私一人でありました。内科の先生が詳しく検査をし外科の先生が術式などを検討し手術を行い、その後フォローしていくという大きな流れの中で、患者さんにとつての大きな出来事である手術というものに毎日関われ、また沢山の患者さんのパターンを知れるという事で麻酔科蘇生科を選択しました。現在のところその考えの通りで充実した毎日を過ごしています。

新入医局員一人という不安は医局内先輩医師の暖かい指導を始め、看護婦さんの優しい指導や他科の先生からもお言葉などいただきました。数日で吹き飛んでしまいました。医師を含め多くの医療スタッフがそれぞれの立場で患者さんのために努力しているという中で、私もわずかながらの役割を担っていることへの誇りと不安を強く感じながら、術場の仕事をこなしている毎日であります。

これから知識や技術の習得はもちろんなこと自分の理想とし、そして患者さんやその家族に望まれるような医師を目指し日々努力していきたいと思ひ、また、他科の一年目の先生が夜遅くまで働いている姿を見かけると自分もがんばらねば

という気持ちになり、このような初心を忘れずにいつまでも努力は続けていきたいと考えています。

最後にりましたがこの

研修医

整形外科 高杉和雄



成績優秀者が大学祭実行委員長、東医体で優勝したクラブの代表が、学内広報紙「かぐらおか」やその他の出版物に寄稿しておりましたので、順番とはいえ、僕がこんな大それた場に文章を出すことになるなんて夢にも思いませんでした。

こんなことなら、もつと文を書く練習をしておくべきだったと悔やんでいます。

一九九七年四月十八日、札幌駅内のミスタードーナツで国家試験の合格発表の時間を待ちました。ホッとミルクとドーナツ一個を頼んだ僕でしたが、喉を通ったとたん胃が物凄く痛み吐き出しそうになりました。会場で自分の名前を見

場を借りて医師・看護婦・検査技師の方、そして病院に携わっている方々へご指導の程よろしくお願いを申しあげます。

つけ仲間と握手を交わし、喜びと同時に医師の責任の重さに身が引き締まりました。僕の合格を誰より喜んでくれたのは両親でした。そして今春退官された米増先生からは、肩を何度も叩かれながら「よかった。本当によかった」と手を痛いくらいに握っていたのだの思い出します。

四月二十一日の勤務初日臨時手術の助手という手荒な歓迎を受け、帰宅が午前三時になりました。あれから二ヶ月が経ちました。

要領の悪い僕が医師として一人前になるには、多忙な研修を積み確実な技術に身につけるしかないという自分の入局先に母校の脳神経外科を選びました。

が、予想以上の研修内容に充実感と多少の疲労を感じています。

現実には知らない・できないことの山盛りで自分が無知無力であることを、日々感じます。「高杉、こんな

こともまだできないのか、あーもういいい!」「同じこと何度言わせる」「高杉この仕事向いていないんじゃないの」「余計なことは言うんじゃない!」「おまえはどうして不潔にしたがる!」全て自分に落ち度があるので返す言葉などありません。「一度見たこと・教えられたことは一度で吸収しろ」「自分の仕事は直ちに片付け先輩の検査・手術の支度をするまでしなれば、技術を教える気にはならない」プロとして技術習得の厳しさと、それだけの気概が、患者さんの命を預かる者に必要だということとです。自分の甘さを痛感しています。

嬉しいこともたくさんあります。学生時代、実習でお世話になった先生方や技師さん、看護婦さんから声を掛けて戴けると、元気が出てきます。先輩医師にはとても恵まれています。特に先輩病棟医師四人が、手取り足取り、様々な手技・手法から、脳外科医としての心構えに至るまで、弟分の僕に教えてくれます。初めは恐かった病棟の看護婦さん方も今は優しく丁寧に様々なことを教えてくれます。技師の方々は多種多様な情報を親身になって提供してくださいます。

最後にになりましたが、僕

自身、患者さんのために、少しでも協力できるような技術・知識を磨く所存です。

先生方をはじめ看護婦さん

看護婦となつて

看護婦 田中久美子



看護婦として勤務し始めてから、早や二カ月が過ぎようとしています。三交替の勤務帯を一通り経験し各業務の流れが掴めてきた中、一つ一つの業務を覚えていくことに精一杯になっている状況です。

学生の時は、一人の患者さんを対象に、疾患から生活背景に至るまで把握してから看護計画を立ててじっくり関わり、技術的な経験を積むことよりは、むしろ理論的なことや、患者さんとの交流の中から、看護とは何か、看護婦のあり方について学んできました。しかし、いざ働き始めると、多勢の患者さんが対象となり、自分が勉強不足で把握できていないからといって

・技師さん・事務方の皆さんからの厳しい叱咤激励とご協力を、どうか末長く宜しくお願い致します。

もう一つは、今は怖れている責任の重さが、逆にやりがいに変わっていくのではないかと漠然と思っていることだと思えます。学べべき事は無限にあり、スローペースな私が、今後自分で判断し、主体的に行動できるようにならなければならぬ事を考えると、不安で一杯になります。そんな時、責任を自覚し、自律性を持って動いている先輩ナースの姿は魅力的に映ります。また、学生時代、教授が口をすっぱくして言っていた「専門職」である看護婦に求められる特性・課題について思い出されます。当時は丸暗記していた言葉の意味がわかり始めてきた気がします。自分の意志や自己推進力が大切な職業であると思っています。

今は、先輩ナースより指導・示唆を受けながら学んだことを、自分のものとして吸収していきたい、確実に実施できるように、日々努力していきたいです。業務にただ慣れたり、妥協するのではなく、常に自分自身を振り返り、疑問を持ち続けて、本当の意味での成長ができるように、そして、一日も早く、真の看護婦として、自信を持って患者さんの前に立つことができるように頑張っていきたいと思

います。

看護婦としての自分 西岡理恵



かけてくれて、逆に私が励まされ応援されてしまいました。しかし、この言葉は、患者さんを励まし支えていかなければいけない言葉だと思えます。

看護学生の病院実習では、患者さんと私の一对一の看護を展開していききました。一人の患者さんを二週間受け持つのは、私自身も何をしたいのか惑ってばかりでした。しかし、看護学生の

の一对一の看護は、最初ぎこちない会話の中でも患者さんは何を考えているのか、何を訴えているのかと私も親身になって聴くことができたし、患者さんの思いは

会話だけではなく、しぐさや表情、軽く手を握ることでも患者さんは少しずつ心を開いていってくれます。現在の私には、話を親身にな

って聴くという看護が欠けていたと思えます。白衣への憧れだけではなく、患者さんが痛みを訴え、または不安、悩みを抱えている時、耳を傾け疼痛の緩和に努め、少しでも苦痛のない入院生活を過ごして

らうために、看護学生で学んだことを実践することが看護婦としての務めだと思

います。そして、私が勤務する病棟は外科で、ほぼ全員の患者さんが手術を行ないます。入院、手術する患者さんは、様々な問題を抱えています。この問題を解決するために

は、患者さんを知り患者さんとい人関係を作るのが大切です。そのため、話しやすい環境作りとして時には、

二人で話せる場所で話すことが必要です。よく「看護婦さん忙しいそうで...」と患者さんは言いますが、そんな気遣いをさせないよう、ゆつくりと話せる時間やゆとりをつくるように心がけ、時間におわれる看護婦ではなく、患者さんの思い、苦痛を受け止め問題を解決できる看護婦をめざしていきたいと思います。

旭川医科大学医学部附属病院に就職して、約二か月になりました。社会人として新しい生活が始まり、日勤、準夜、深夜の三交代という勤務時間のずれにも少しずつですが、慣れようとしています。仕事においては、患者さんの状態の変化に対応し、毎日一つ一つ知らなかつた検査や看護用語、看護技術が出てくることで覚えることがたくさんあります。そして私は、新しい事を習得することに必死となり、時間におわれ、慌ただしく二か月が過ぎてしまいました。

慌ただしい時間の中で、多くの患者さんに接してきましたが、私の看護は、患者さんの処置ばかりに目を向けて、患者さんの訴えや思いを上手く受け止めることができたのでしょうか。患者さんから、「大変だね。がんばってね。」と声を

二人で話せる場所です。よく「看護婦さん忙しいそうで...」と患者さんは言いますが、そんな気遣いをさせないよう、ゆつくりと話せる時間やゆとりをつくるように心がけ、時間におわれる看護婦ではなく、患者さんの思い、苦痛を受け止め問題を解決できる看護婦をめざしていきたいと思います。

看護部 各チームの紹介

外来NSの紹介

「病院玄関の 守護神たち」

大雪山連峰の神々に守り育てられた旭川医科大学附属病院も、はや二十歳を過ぎ、成熟期に突入り高度な医療を提供する特定機能病院へと成長した。その表玄関を守る守護神こそ、私の自慢する看護婦一同である。構成は、澤沼敏子婦長を筆頭に、副婦長三名およびスタッフ二十名、パート六名の総勢三十名の大世帯である。看護婦の背景を紹介すると年令は、三十五歳以上が、二十四名で80%、経験年数は、十年以上の経験

外来看護の役割として重要なことは、外来で継続して治療を受けている患者が、自分の病気をコントロールし、家庭生活や職場で生じる問題の解決や病気の悪化を予防するためのケアの方法について患者と家族をサポートすることにある。今後もマンパワーで病棟との連携を保ち継続ケア室の利用や患者のニーズに応じた社会資源を有効に活用し患者のQOLの向上に貢献したいものである。又、病院玄関の顔として、患者の守護神でありたいと願う。
(副婦長 細川とき子)

特殊検査室の 紹介

特殊検査室は、婦長、副婦長を含め六名の看護婦と四時間の非常勤看護婦一名で構成されています。業務は三階内視鏡検査室と二階血管撮影室・特殊撮影室の検査介助、一階放射線治療室の患者ケアです。私達が検査室で接する患者さんは、生後数時間で検査を受けたり、八十才代後半で治療を受けるなど、幅広い年齢層を対象とします。また中央部門のため、感染に最大限の注意と関心を持ち予防策に心がけています。そのため、各診療科、病棟各ナースステーション、放射線部とのチームワークを円滑にし、情報交換は短時間で、充分できる様工夫し、心がけています。今年度、三階内視鏡検査室が改築されました。オープンフロアに、六室と従来の透視室、計七室使用できます。内視鏡検査室に特殊検査室の看護婦が一名配属されてから三年になります。当初に比し内視鏡的治療検査項目が大巾に増え、それに伴い、必要物品、薬品の常備も増えました。
緊急検査にも対応できる様整えています。改築後は、検査に依りて必要な患者用更衣室を造り、ロッカーを設置しました。又、患者サービスとして、音楽療法を取り入れ、ビデオ・CDを流し、治療・検査を待つている患者さんの不安が少しでも解消される様にしていきます。二階血管撮影室、一階治療室でも、患者さんの希望に応じて音楽を流しています。特に放射線治療中は、患者さんから「孤独感が解消される」との言葉がきかれています。
私達は、治療・検査を受ける患者さんが、無事に帰宅し、又帰宅できる様配慮し、よりよい援助ができる様心がけ、自己研鑽に努めています。
(婦長 柏 静子)

【薬剤部】
新薬紹介(31)

トログリタゾン
(ノスカル錠)

糖尿病の約95%を占めるインスリン非依存型糖尿病(NIDDM)では脾からのインスリン分泌不全やインスリン標的組織である肝筋肉、脂肪組織でのインスリン作用の減弱、すなわちインスリン抵抗性の増大が原因となつて高血糖が生じていると考えられています。これまでNIDDMの治療には主にスルホニルウレア(SU)系経口血糖降下剤が用いられてきましたが、α-グルコシダーゼ阻害剤が食後過血糖改善薬として登場し、SU剤とは全く別の面からの血糖コントロールの手段をもたらしました。さらに今回インスリンの作用を増強し、インスリン抵抗性を改善する薬剤として開発されたのがチアゾリジン誘導体トログリタゾンのノスカル錠であります。トログリタゾンはビタミンE骨格を有するクロマン環にチアゾリジン環を導入した化合物であり、脾インスリン分泌促進作用はなく、内因性のインスリン存在下で薬理作用を発現します。インスリン抵抗性NIDDM

Mモデル動物において血糖降下、高インスリン血症改善および中性脂肪低下作用が認められています。血糖降下作用機序としてインスリン作用増強、すなわちチロシンキナーゼの活性化あるいは不活性化の抑制などのインスリン受容体感受性増強、また肝における糖新生の抑制、末梢組織(筋肉、脂肪など)への糖の取り込み促進作用などが報告されています。最近、チアゾリジン誘導体が脂肪細胞の分化に重要な役割を担っている転写因子(PPARY)と選択的に結合し、その転写活性を高めることが明らかとなりました。肥満者のインスリン抵抗性と密接な関係があるとされているTNF(腫瘍壊死因子)-αの発現と分泌がPPARYの活性化により抑制されることから、PPARYとの結合が本剤のインスリン抵抗性改善作用の第一ステップである可能性が示唆されています。

本剤のNIDDM患者に対する単独投与あるいはSU剤との併用による臨床成績では、何れにおいても空腹時血糖値は有意の低下が認められ、中等度改善以上は49.6%でありました。患者の層別解析では肥満度(BMI)が大きいほど、空腹時インスリン値が高いほど有効率が高い傾向が見られています。また経口ブドウ糖負荷試験では耐糖能の改善とともに血中インスリン濃度の低下が見られ、グルコースクランプ法により末梢組織での糖の取り込み改善なども確認されています。本剤は通常一回300mg、一日二回朝夕食後経口投与でNIDDMに使用が認められています。但し、食事療法、運動療法のみで十分な効果が得られずインスリン抵抗性が推定される場合、あるいはSU剤が効果不十分な場合に限り用いられます。また本剤を単独で使用する場合はインスリン抵抗性が推定される患者に限ること、その目安はBMIで24以上あるいはインスリン分泌状態が空腹時血中インスリン値で5μU/ml以上とされています。副作用としては浮腫、悪心・嘔吐、過敏症、ふらつき感などが、トログリタゾンに、また臨床検査値では赤血球系の低下やLDH上昇などが認められています。本剤単独投与での低血糖症状はまれであります。SU剤との併用では当然注意が必要であります。またこの種の薬剤では世界初の発売であり、今後長期に投与される患者が多くなると思われ、未知の副作用出現にも注意が必要と思われま

紙面の一角を埋めるように御命令が下り、締切も間近なので、私が最近凝り詰まっていた三國志について書こうと思う。後漢滅亡後の魏蜀呉の三つ巴の抗争を描いた史書三國志は、吉川英治の小説や、横山光輝のコミックでも触れることができる。その他現在二〇〇冊以上の三國志関連本が出版されている。私は前二者から三國志になじんだオーソドックスな三國志ファンである。一五〇〇年以上の歴史を越えて、様々な英雄、豪傑が登場し、彼らの生きざまから、現代という乱世に生きる私たちにも学ぶところが大きい。三國志の登場人物は四〇〇〇名を越えるが、特に乱世の姦雄曹操(魏のトップ)、赤壁の戦いの勝者孫権(呉のトップ)、有徳の人劉備(蜀のトップ)、一五〇〇年以上にわたって中国の人氣No.1を誇る諸葛孔明、孔明のライバルで家康のような狸じいじの司馬仲達などなど多彩である。その中でも私が個人的に一番好きなのが関羽である。好き理由は、紙面の都合で割愛するが、「義の人関羽」は兵万人に値する剛勇と教養を備えた

医局三國志

人で、長身にうるわしい髭をなびかせて、今でも赤兎馬にのり、天を駆けている。前述したが、三國志は現在の私たちの世に置き換えても、興味は尽きない。たとえば皮膚科学の世界においても、北海道はやはり三分している。勿論戦争をしているわけではないが、当教室は、新興であり辺境であり、人口も少なく君主が「人徳の士」であることから、我田引水かもしれないが蜀の立場といえよう。医局員の中には戦えば国土無双であるが、飯のことがばかり楽しみにしている野人「張飛」のような豪傑もいれば、敵に回すと鬼より恐く、あの天才孔明を「臆病者」とのしつた「魏延」のような女傑もいる。こうみると、当教室の未来は明るい、口だけの「馬謖」や、大事な時に役に立たない「孟達」もいる。今後は若手の中で「孔明」も出現すると期待される。当教室としては「中原に鹿を追う」ことはせず、足元をみつめ、道北、道東の地域医療に貢献してゆけば、滅亡することもないであらう。私もそろそろ「出師の表」をかく心の準備が必要かもしれない。皆さん

も是非、一度三國志の世界に触れて頂ければと思う今日この頃である。

〔病院ニュース〕
編集委員
委員長 牧野教授 (第二内科)
委員 東 講師 (小児科)
橋本助教 (皮膚科)
西村講師 (歯科口腔外科)
信岡技師長 (検査部)
千葉薬品情報室長 (薬剤部)
佐藤副看護部長 (看護部)
南山課長補佐 (庶務課)
小塚課長補佐 (医事課)

院内での問題点、要望事項、情報交換等、病院ニュースに載せる原稿がございましたら、庶務係までお寄せください。
また、病院ニュース発行の庶務は庶務課庶務係(内線2134)が行なっておりますので、原稿用紙の請求、御意見・アドバイスを等もあわせてお寄せください。